

八八七番

たらちしの母が目見ずて おほほしく いづち
向きてか 我が別るらむ

八八八番

常知らぬ 道の長手を くれくれと いかにか行
かむ 糧はなしに

八八九番

家において 母が取り見ば 慰むる 心はあら
まし 死なば死ぬとも

八九〇番

出でて行きし 日を数へつつ 今日今日と 我を
待たすらむ 父母らはも

八九一番

一世には 二度見えぬ 父母を 置きてや長く
我が別れなむ